

ラーニング・コモンズとしての大学附属図書館

お茶の水女子大学長

羽入 佐和子

図書・情報チームリーダー

江川 和子

2つの「コモンズ」の基本構想

二〇〇四年に施行された国立大学法人法では、国立大学が、「大学の教育研究に対する国民の要請にこたえとともに、我が国の高等教育及び学術研究の水準の向上と均衡ある発展を図るため」に設置されたことが記されている(国立大学法人法 第一条)。

法人化後すでに中期目標・中期計画期間も第二期に入り、各国立大学は、相互に連携を図りながら、それぞれの特色や機能を明示し強化しつつある。

お茶の水女子大学は、国立の女子大学としての使命をはたすべく女性リーダーの育成とリーダーシップ教育を重点化し、学生支援やキャリア教育を含めた教育改革に取り組んでいる。

リーダーシップ教育では、respect for others, intelligence, confidenceをキーワードとしているが、その理念は、一人一人が知を備えて他者とかかわり、他者を理解することによって、自らを磨き成長することである。一言でいえば、コミュニケーション能力を豊

かに向上させることでもある。

今回ご紹介する「2つのコモンズ」は、この考え方を実践する場として大学が設置した空間である。その一つが、二〇〇七年に附属図書館を改修して新たに創り上げたラーニング・コモンズ(Learning Commons)であり、もう一つが、二〇一一年に開設した新たな学生寮お茶大SCC(Students Community Commons)である。

附属図書館は、人と知が交流する場であり、「共に学び、共に成長する」ことを意図してラーニング・コモンズという空間を設けた。そして、「共に学び、共に成長する」に、「共に住まう」を加えた場がお茶大SCCである。二つの施設には、「他者と共に在る」ように心がける場をつくることで学生が自らを練磨し、社会を牽引する力を習得してほしいという期待が込められている。

二つの施設のそれぞれについて担当者から少し詳しく紹介する。今回は、附属図書館の試みについて。(羽入記)

附属図書館の試み

―共に学び、共に成長する

お茶の水女子大学附属図書館に「ラーニング・コモンズ」と呼ばれるスペースが設けられたのは、二〇〇七年四月のことである。

これに先立つ二〇〇六年四月、羽入佐和子附属図書館長(当時)の下、附属図書館の理念が策定された。「お茶の水女子大学附属図書館は、時間と空間を超える知的交流の場であり、次世代の知を創造し発信する学術情報基盤として機能する」というもので、今も図書館の玄関に掲示されている。また、同年十二月には「大学と協働する図書館」をキーワードとする附属図書館の将来像がまとめられた。続いて、「知的交流」や「協働」を具体化するための図書館改修工事が始まった。このとき、フロアプランに取り入れられたのが、北米のリベラルアーツ・カレッジ等で成功を収めていたラーニング・コモンズだった。

改修は段階的に進められ、その成果は、学生たちに圧倒的な支持をもって迎えられた。五年間で入館数が倍増しただけではなく、学



生に図書館の業務体験を提供するLISA (Library Student Assistant) プログラムの参加希望者も、当初の十数人規模から、四〇人を超えるようになった。これは「学習の場」「協働の場」としての図書館が確実に定着したことを示している。

(1) ラーニング・コモンズ

本学のラーニング・コモンズは、広い窓に面した約二〇〇㎡の開放的な空間である。認証システムで管理された約八〇台のパソコンが設置されているが、繁忙期の午後には満席になることも珍しくない。授業の合間のメー ルチェックに立ち寄る学生や、一台の画面を数人が囲んで楽しそうに語り合う姿も見受けられる。

リラクセスした雰囲気にもかかわらず、最も多数を占めるのは、長時間にわたって腰を落ち着け、レポート作成などに取り組む学生の姿である。彼らの

存在は、大学が「自主的な学習」の場であること、教員の指導や強制がなくても、自らを磨き成長することを目指す場であるということ、周囲の学生に自ずと自覚させる役割を果たしている。

ラーニング・コモンズには、情報基盤センターから派遣されたラーニング・ア

ドバイザー(ティーチング・アシスタント)が常駐しており、情報機器をめぐって発生する問題は、学生同士のピアサポートによって解決される。これも「共に学び、共に成長する」能力を養う仕組みの一つである。

(2) キャリアカフェ

ラーニング・コモンズに関する研究文献の多くは、交流や共同学習のためのスペースを、その必須要素の一つに挙げている。本学は、二〇〇七年十二月に「キャリアカフェ」を開設した。ラーニング・コモンズと連続する約一六〇㎡のスペースには、通常三〜四人掛けの小テーブルが八つ配置されている。比較的用户者の少ない午前中は、飲みものをテーブルに置き、静かに資料に目を通す学生の姿も見られるが、午後は、活発なコミュニケーションやディスカッションの声がにぎやかに飛び交う。日本語だけでなく、さまざまな言語が錯綜するのも、大学らしい光景である。

キャリアカフェは、その名のとおり、学生が主体的に企画・実施するイベントに、積極的に活用してもらうことを意図し、ホワイトボード、小型プロジェクター等の貸出も行っている。また、大学側が提供するプログラムとして、キャリア支援センターやグローバル教育センターの職員による就職相談や留学相談も定期的に実施されており、「OG懇談会+企業説明会」の際は、五〇〜六〇人が着席可能なイベントスペースに早変わりする。

(3) ラウンジ

採光のよいラウンジ約一四〇㎡は、新聞や週刊誌のブラウジングと休息のエリアとして設けられている。木製の大机、小テーブル、

ソファ、丸椅子など、設置された家具の多様性は、このスペースの用途の多様性をそのまま示している。大机で黙々とレポート作成に励む学生もいれば、わずかに離れた小テーブルで、活気ある話し合いが行われることもある。それぞれが自由に振る舞いながら、同時にマナーを失わない。「共に学び、共に成長する」ために必須の「他者と共にある振る舞いかた」を実地に学ぶ場となっている。

二〇一〇年三月には、附属学校で長年使用されてきたドイツ製の小型グランドピアノが設置され、月一回、音楽表現コースの学生によるミニコンサートを開いている。大学の歴史や芸術文化に対する関心を高めるといって、インフォーマルな学習効果とともに、新たな図書館利用者を呼び込む効果も期待されている。

「共に学び、共に成長する」図書館であるために

当初は図書館一階の特定のエリアに設けられたラーニング・コモンズだったが、現在は、むしろ図書館全体が「共に学ぶ場」ラーニング・コモンズ」機能の具現化を目指して動いている。施設の整備はほぼ完了し、今後の課題は、その施設を使って、どのようなサービスを提供していくかに移ってきた。図書館の認知度が高まるにつれて、リテラシー教育支援、ライティング支援など、より多様な期待が寄せられるようになった。われわれは、これらを、学生・教員・学内外のさまざまな施設との協働の中で解決していきたい。そして、職員もまた「共に学び、共に成長する」図書館でありたいと考えている。(江川記)